

## 多言語対応・ICT化推進フォーラム in 多摩

### 特別講演 「Why 多言語対応!？」

2016年7月5日、東京都府中市の東京自治会館にて、主に多摩地域、東京都の区市町村の職員を対象とした「多言語対応・ICT化推進フォーラム in 多摩 ～東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて～」が、東京都（オリンピック・パラリンピック準備局）の主催で開催されました。

多言語対応に関わる自治体、観光協会、商工会などの関係団体の職員約350名が参加して、特別講演や有識者を招いての基調パネルディスカッション、各種セミナー、自治体による観光事例紹介、および多言語対応を助けるICT（情報通信技術）の最新技術の展示会（デモンストレーション等）が行なわれました。



プログラム冒頭、東京都から、多言語対応協議会の設置目的や基本的な考え方、現在までの活動内容などについての紹介があった後、お笑い芸人兼IT企業役員の厚切りジェイソン氏による特別講演『Why 多言語対応!？』が行なわれました。

「外国人から見た日本」という視点から、また、かつて日本でアメリカ英語対応の音声認識ソフトの開発・研究にも従事していたこと経験から、日本の多言語対応について気づいたことなどを、講演いただきました。

「最近では減りましたが、電車の路線図が漢字ばかりだったり、看板でも、日本語がたくさん書いてあるのに、英語が少ししか書いてないことがあります。前にこんなものがありました。」と、ジェイソン氏。



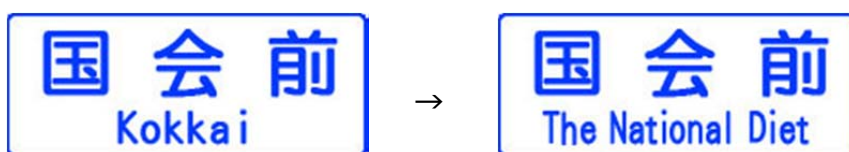
「日本語では『赤いボタンは絶対に押しはいけません』と書いてあるのに、英語では『PUSH』（押せ）って書いてある。試しに（赤いボタンを）押してみたら、大変なことになりましたけどね。」（会場笑い）

また、「看板で、日本語をそのままローマ字で書いてあっても、日本人には分かるけど、外国人にはわかりません。

『Kokkai（コッカイ）』と読めるけど、『コッカイ』が何か分かりません。（左）

最近では、『The National Diet』（右）に改められていますが、『Where is The National Diet?』と道を聞かれても、分かるでしょうか。」

【例】



「例えば、日本語の読み方をローマ字で書き、意味を英訳して書いてあれば、日本人と外国人、どちらにも理解できます。」

「相手の立場に立った「おもてなし」が必要。よく日本のおもてなしの例として、道を聞かれたら一緒に連れて行くというのが挙げられますが、もしかしたら相手は、今すぐ行きたい訳じゃないかもしれない。今は、聞いておいて、後で（帰りに）行こうと思って、行き方を知りたいだけかもしれない。相手の状況や立場がわからないと、親切のつもりでやっても、そういうギャップも起こりますね。」

（当フォーラムの会場でも、多言語対応と ICT 化ということで、ICT の最新技術の展示やデモンストレーションを行っていますが、多言語対応と ICT 化について）

「自動翻訳や読み取り機能は、とてもよい技術だと思いますが、まだ完璧ではないですね。例えば『お手洗い』という言葉も、文字通り翻訳したら『手を洗う』になってしまいます。」

「よく『お疲れ様です』とか『いただきます』を、英語でどう言うんですかと聞かれますけど、そういう習慣がないから、伝わらないんですね。だから翻訳というよりも、相手の状況や、求めるところを分かっていると、理解しあわないというか、全部を分かった上で話さないと伝わらないと思う。単語を一つ一つ翻訳しても、多分どこかで意味が失われるんじゃないでしょうか。」

（ジェイソン氏の始めた日本語と英語のブログについて）「日本語で書いて、それを見ないで、英語でも書いています。例えば、『蛙の子は蛙』ということわざがありますが、英語では似たことわざで“The apple never falls far from the tree.”(リンゴの実は林檎の木から遠くには落ちない) という文が『子供は親に似る』というほぼ同じような意味になります。蛙は使わない。“Frog child is Frog”とは言わない。しかも、『蛙の子はオタマジャクシ!』

（会場笑い）言葉だけではなくて、文化や習慣を理解することが必要ですね。」  
（そういう意味で英語の勉強にもなりますから、是非皆様ご覧いただければと。）

（東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて）

「まずは多言語化というよりも、英語を勉強したほうが良いと思います。日本以外はどこも、英語でなんとかなるので、そのグローバル基準に合わせれば、他の国と同じように、来やすく、行きやすくなると思います。その後ずっとそれが残れば、日本にいる間は動きやすいということにも繋がると思います。」

（まだまだ足りないですよ。）

「ちょっと足りないところはありますね。先ほどの看板の例のように。」

（お互いの文化を学びながら、ですね。）

「世界には色々な習慣があります。ムスリムでは、食べられないものがあります。言語だけでなく、相手を理解するという気持ちが大事です。」

（最後に、ご来場の皆様に一言）

「オリンピック・パラリンピックは、日本に来たことのない人が初めて来る非常に良い機会です。是非それを掴んで、日本は良い国だと、行きやすいと思ってもらうために、おもてなしをするのは素晴らしいことだと思います。」

ただ一つだけ自分の意見を言うと、観光に来る外国人だけでなく、実際に外国人が住みやすい環境まで整わないと、ゆくゆくは日本経済が損をすることになりますから、もっと外国人と完全にやり取りができる環境になってほしいと、このオリンピック・パラリンピックはそれができる非常に良い機会だと思いますので、是非、皆さん力を合わせていただいて、頑張りましょう。」

「多言語対応・ICT 化推進フォーラム in 多摩 ～2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」

参考資料配布：<http://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/references/160705forum.html>